従業員の幸せ＝生産性を企業が考える時代

心あったかニュース

NMCAA
NO3

従業員の幸せが、企業の利益になる。それに気づいた企業が、働くということを変えていくかもしれません。従業員に幸せになってもらう、ことが実は、企業の幸せにもなる。従業員も企業も両方が幸せになる。プラスの連鎖ができたら、社会にもっと幸せが増えますね。そんな素敵なカンファレンスの内容です。

（ヤフーニュース　日本最大のHRネットワーク　日本の人事部より）

日立製作所は、「働く人のハピネス（幸福度）が高まれば向上する」ことを実証、生産性向上のためのサービスを開発した。ユニリーバ・ジャパン・ホールディングスは、従業員の幸せな働き方を目指した制度『WAA』を導入し成果を上げている。日立製作所の矢野和男氏、ユニリーバ・ジャパン・ホールディングスの島田由香氏、『幸福学』を提唱する慶應義塾大学大学院教授の前野隆司氏がセッションを行った。

はじめに幸福学を研究する前野氏が語った。『幸せな従業員は不幸せな従業員より創造性が3倍高い、という研究結果があります。これは、従業員が幸せになるとイノベーションが3倍起きる、ということです。幸せな社員はパフォーマンス・生産性が1．3倍高い、というデータもあります。また、幸せは生産性を上げるだけでなく、欠勤率や離職率を下げることにもつながります。さらに、組織を活性化し、人は長寿で利他的になる。従業員の幸福度を高めることは、よりよい経営、人事につながるのです』

日立製作所の矢野和男氏より『例えば、コールセンター。『休憩所で雑談が弾んだ』『ある人が声をかけた』といった、ちょっとしたことが幸福度、ひいては受注率に影響を与えていました。気分がハッピーな日は34％も受注率が高くなります。過去のデータから『ある人が優先して声をかけると、みんながハッピーになる』という設定で比較実験したところ、一年の平均受注率の差が27％もあったのです。3割程度は簡単に業績を改善できることがわかりました』

ユニリーバ・ジャパン・ホールディングスの島田由香氏は『私の結論は『生産性を上げたければ幸せになりましょう』ということです。幸せでいれば、生産性が30％、営業成績が37％高くなる、というデータもあります。島田さんは最後に、私たち人事は、最も人を幸せにできる部署であり、仕事だと思っています。だからこそ、人事自身が幸せを感じることは大切です。ぜひ皆さんも一緒に、もっともっと幸せになりましょうと語る。

編集後記

他の人の幸せを願い、実行に移すことが、実は自分の幸せになるということがわかります。

幸せな人こそ、周りの人を幸せにできる人なのだと感じました。これからは、幸せをもっと追求して、そうなっていくことが、社会のためでもあるのだと感じました。